



2020年11月11日

各位

会社名 ENEOSホールディングス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 大田 勝幸
 コード番号 5020 東証・名証第1部
 問合せ先 財務IR部IRグループマネージャー
 井上 亮
 (電話番号 03-6257-7075)

2021年3月期 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2020年5月20日に公表いたしました2021年3月期通期連結業績予想を下記のとおり修正しましたので、お知らせいたします。

記

1. 2021年3月期 通期連結業績予想数値の修正 (2020年4月1日~2021年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	税引前利益	親会社所有者 に帰属する 当期利益	基本的 1株当たり 当期利益
前回発表予想(A) (2020年5月20日発表)	7,340,000	110,000	85,000	40,000	12円43銭
今回修正予想(B)	7,500,000	200,000	175,000	90,000	28円03銭
増減額(B-A)	160,000	90,000	90,000	50,000	15円60銭
増減率	2.2%	81.8%	105.9%	125.0%	125.5%
(ご参考)前期実績 (2020年3月期)	10,011,774	△113,061	△135,764	△187,946	△57円86銭

(注) 2020年8月12日公表の通期の連結業績予想では、5月20日公表を据え置きました。

2. 修正の理由

営業利益は、前回発表予想比900億円増益の2,000億円となる見通しです。

900億円増益のうち、在庫影響^{*}による良化が650億円、在庫影響を除いた営業利益相当額は、250億円の増益となっております。

在庫影響は、原油価格(ドバイ原油)前提を10月以降45ドル(前回発表4月以降30ドル)へ見直したことに伴い、550億円の損失から100億円の利益となる見込みです。

<営業利益に占める在庫影響>

(単位:億円)

	前回予想	今回予想	増減額
営業利益	1,100	2,000	900
在庫影響	△550	100	650
在庫影響を除いた営業利益相当額	1,650	1,900	250

^{*} 総平均法及び簿価切り下げによるたな卸資産の評価が売上原価に与える影響

在庫影響を除いた営業利益相当額については、前回発表予想では新型コロナウイルス感染症による石油製品等の需要減など業績への影響が半年程度続くことを前提としておりましたが、足元の状況も踏まえ、今回修正予想では下期も新型コロナ影響が一定程度継続することを前提としております。

これにより、輸出を中心とした石油製品販売数量の減少継続、カセロネス銅鉱山の稼働減などマイナス影響を下期に織り込んだ一方、堅調な国内石油製品マージン、原油価格・銅価格の上昇による上流事業の改善等により、在庫影響を除いた営業利益相当額は、前回発表予想比 250 億円増益の 1,900 億円となる見通しです。

なお、親会社の所有者に帰属する当期利益も同様に、前回発表予想から増益となる見通しです。

<事業セグメント別内訳>在庫影響を除いた営業利益相当額 (単位：億円)

	前回予想	今回予想	増減額
エネルギー事業	900	750	△150
石油・天然ガス開発事業	0	50	50
金属事業	290	540	250
その他の事業	460	560	100

本見通しは、通期平均で原油価格（ドバイ原油）；バーレル当たり 41 ドル(10 月以降 45 ドル)、銅の国際価格（LME 価格）；ポンド当たり 275 セント(10 月以降 280 セント)、円の対米ドル相場；106 円（10 月以降 105 円）を前提としております。（前回発表予想：原油価格；バーレル当たり 30 ドル、銅の国際価格；ポンド当たり 250 セント、円の対米ドル相場；105 円）

（注）本資料には、将来見通しに関する記述が含まれていますが、実際の結果は、様々な要因により、これらの記述と大きく異なる可能性があります。かかる要因としては、（1）マクロ経済の状況又はエネルギー・資源・素材業界における競争環境の変化、（2）新型コロナウイルス感染症による経済活動への影響、（3）法律の改正や規制の強化、（4）訴訟等のリスクなど、が含まれますが、これらに限定されるものではありません。

以上